

委員からの主な意見

- ① 第5期観光戦略プランの期間を3年間と短期に設定することは、新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えれば、妥当だと思う。
- ② 新型コロナウイルス感染症に伴い、旅行スタイル・ニーズが大きく変わっている。第5期観光戦略プランには、新しい旅の仮説を立て、どういう市場にどういうことをやっていくのか具体的なアクションプランを入れ込んだらどうか。
- ③ ワクチン接種がやっと始まった状況の中で、新型コロナウイルス感染症収束後に向けて思い切った対策を講じてもらいたい。昨年度に実施した Go To トラベルは効果が大きかった。
- ④ 鳴子温泉にある「こけし館」は、5月及び6月も休館となり漆器・工芸品の販売は厳しい。漆器・工芸品の販売促進策を考えてもらいたい。
- ⑤ 世界農業遺産「大崎耕土」と連携した観光振興策を考えてもらいたい。米の消費が落ち込んでおり、観光と世界農業遺産との連携で米どころを守っていきたいと考えている。また、そのためにもソーシャルキャピタル（社会関係資本）の構築が必要であり、地域の人々が地域の良さを伝えられるシビックプライドの醸成が大切である。
- ⑥ 安全安心は人々の目には見えにくい。安全安心の見える化に取り組んでいかなければならない。また、デジタル技術を活用した動画等による観光にも取り組むべきである。
- ⑦ 観光地の魅力、地域の良さをもっと知ってもらえるよう情報発信が必要だが、その情報発信力が弱いのではないか。
- ⑧ ワークেশョンを推進したいが、企業側に動いてもらう仕掛けが必要である。
- ⑨ 第5期観光戦略プラン期間の3年に違和感がある。今は観光事業者を継続させる方が大事である。交通事業者も大変厳しい状況にあり、宿泊割引キャンペーンなどの振興策を実施してもらいたい。また、ワクチン接種の進展もあるので、状況に応じた対策を実施してもらいたい。
- ⑩ 今後の観光振興のキーワードとしては「健康」、「自己啓発」、「出会い・触れあい」が考えられる。また、長期的な施策として空き店舗・建物取り壊しなど温泉街の風情の創出に取り組んでももらいたい。
- ⑪ 第5期観光戦略プランの目標指標値に、沿岸部の復興関係を入れ替えて県全体の数値を目標指標値としていることは、今後、内陸部における振興策も推進されるものの表れと期待している。また、目標指標値を高めを設定した方が良い。行政がすること、事業者がすることなど役割分担を明確に示すと分かりやすい。

- ⑫ 観光ニーズは大きく変わっており、変化のスピードも早い。世界農業遺産「大崎耕土」をコンテンツにオンラインによる実証事業に取り組んだところ、参加された方に大変気に入られた。今年9月開催の全国農泊ネットワーク大崎大会を通じ、全国的なものにしたい。多くの財産があるので、大崎圏内で連携しながら観光を上げることが柱にできれば。また、大衡村にあるトヨタの工場が近くにあるので、工場見学に来た観光客を大崎地域に呼び込む方策を検討してはどうか。
- ⑬ 観光施策の方向性としては「食との連携」がよく取り上げられる。この地域は世界農業遺産「大崎耕土」があるので、ここで収穫された農林産物を活用した施策を関係団体とよく連携して取り組んでいく必要がある。
- ⑭ （北部地方振興事務所において）マイクロツーリズムの促進事業を検討しているとのことで、大変期待している。また、大崎地域を訪れる観光客のビッグデータがあればいい。そのデータを観光・宿泊施設別にあると事業者側にとって大変役立つ。
- ⑮ 第5期観光戦略プラン期間が3年間としているが、目標指標に関して、PRのための「観光イベントに参加した人の人数」、「観光イベントを支援した件数」など、途中経過の指標でもよいのではないか。
- ⑯ ワークーション対応に設備を整えたが、客が来ていない。今の20代の半分はテレビを見ていないし、Facebook もやっていない。30代以降はSNSでも Facebook が多い。年代別に区別した情報発信が求められる。
- ⑰ 宿泊施設は、災害時には避難者の受け入れ先にもなる。災害・事故時の旅行者の安全確保や宿泊施設が安全となるような施策も必要である。